**樹齢800年のタカオカエデ**

阿弥陀寺は、秋には金色から、オレンジ色、そして赤褐色へと変わり、何百本ものもみじの木が有名な渓谷にあります。

寺を囲む300本以上のもみじの木の中で、最も有名なのは、本堂に続く急な道と谷を切り開く小川の滝の間にある800年前の木です。

その木は京都市によって天然記念物として登録されています。

一般にカエデの木の寿命は約200年であり、阿弥陀寺の僧侶はこの木の寿命が長い理由を2つの要因に分類しています。急な谷の底で成長し、近隣地域に吹きつける強風や台風から守られている。木は川のそばにあり、もみじは水の側で良く育つことが知られている。

しかし、そんなもみじにも年月が表れてきている。その主幹は3つの枝に分かれており、すべてが厚い苔の層で覆われています。上部の枝のいくつかは近隣の木に寄りかかっており、一部の弱い枝はケーブルで固定されています。